

○12番（吉川里已君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。自由民主政策研究クラブの吉川でございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまから私の一般質問を始めたいと思います。

今回は、3月11日に発生をいたしました東日本大震災、これを受けまして、市民の安心・安全のまちづくりということで、防災、消防、防犯、道路、そして医療といった観点から関連質問をさせていただきたいというふうに思います。

今回の未曾有の大震災以降、私も本当に物の見方、考え方といったものが少しずつ変わってきたように思います。これまで本当に当たり前だというふうに思っていたことが、そうではないといったことが今回の震災で痛感をさせられたところでございます。私も5月9日からですか、7日間にわたって宮城県の仙台市若林区のほうに被災地入りをさせていただいたところであります。そこでは、被災者の皆さんの一日でも早い復旧を願ってボランティア活動に当たってきたわけでありますけれども、そこで感じたことは、本当に被災者の皆さん、そしてまた自衛隊とか警察とか、そういったいろんな方々が自己犠牲の中で一日でも早い復旧、復興を願っておる、そして献身的に活動をされている姿でありました。

しかし一方で、今、福島原発の事故、これに対しては情報が二転三転したり、あるいは放射性物質の基準についても明確ではないといったことで、私たち国民は何を信じていいのか、そしてまた、だれを信じていいのか、本当にこの国の安心・安全といったものに疑問符が投げかけられた今回の震災であります。

武雄市は樋渡市長を先頭に、震災の翌日、義援金の募金ということでゆめタウンで2日間活動を行いました。そこには、きのうも御紹介ありましたが、武雄高校の女子の生徒の皆さん参加をしていただきましたし、市内におきましては区長会を初めとする各種団体の皆さんが御参加をいただいた。そしてまたツイッターで投稿をしたところ、県内外からも、福岡からもたくさんの皆さんが駆けつけてボランティアに協力をしていただきました。これによりまして、2日間で何と128万円という義援金が集まったわけであります。そしてまた、樋渡市長はその翌日、早速武雄市の緊急支援物資ということでトラック便に乗せて東北地方に送っていただきました。それからまた、全国に先駆けて被災者を受け入れようということでタウンステイ構想ですか、これを表明いただいた。そしてまた、樋渡市長自身みずから何度も東北地方に出向いてボランティア活動をやられた。そして、私たちと一緒に実際スコップを持って3日間ほど活動していただきました。

今回、樋渡市長として、このボランティア、あるいは災害に遭遇をされてどのような総括をされておるのか、まずお伺いをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

心情的には昨日の山口昌宏議員にもお答えいたしましたので、私はこれ市民に向けて、あるいは県民、国民の皆さんたちに訴えたいことを中心に申し上げたいと思います。

きのうもツイッターで私のところにあったのが、この議会で結構見られよとですよ。もう日本じゅうから見られて、いや、もうよかったですね。私が市民に不安感を与えているとか、そういうのはありませんから頑張ってくださいと言われてましたよ。

それで、私が申し上げたいのは、とにかくにも圧倒的にボランティアの数が足りない。もう陸前高田市においても、これはある意味、日本じゅうみんな知っている陸前高田市においても足りない。その上でもう一個あったのが、行政の職員も足りない。確かに今、例えば名古屋市、偉いですね。河村市長さんという人、偉い。陸前高田市にもう60人単位で送りやるわけですね、60人単位で。しかし、ここにも問題点があって、なれたところにはもうかわらんばいかんと。そいぎ、何が今足りないかというぎ、長期的な支援がやっぱり足りない。それと、これは陸前高田市長もおっしゃっていますけれども、その受け皿がないで、受け皿がいっぱいそういうふうにはボランティアで来たり来んやったりしんさつとばってんが、それがどこにちゃんと配置ばするとか、コーディネートをする人のおらんという話ですもんね。ですので、そういう意味からすると、もう圧倒的に人手が足りないということですので、私は吉川議員を初めとしてお願いをしたいのは、それをもう口々に、自民党ですよ、もう政局に加わらんで被災地に行くぞと言うてください、あの青年局に。もう体もてあましてんさつですよ。ですので、そういうことで、とにかく被災地に行って吉川議員がされたように、スコップを持って、実際、被災者の人たちに勇気と力を与えていただくことをお願いしたいと、このように思っております。

#### ○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

#### ○12番（吉川里巳君）〔登壇〕

ありがとうございました。本当に私たちが行ったのは連休明けですね、行きましたけれども、ボランティアの姿はほとんど見かけなかったような状況でございます。やっぱりいろんな機会を通じて、ぜひこのボランティア活動、皆さん御協力をいただければというふうに思っています。

それでは、地域防災計画、それから、自主防災組織について通告をしておりましたけれども、これまで各議員いろいろと取り上げられましたので、割愛をさせていただきたいと思えますけど、1点だけちょっと御紹介をさせていただきます。

（パネルを示す）これは、朝日町の高橋地区で自主防災組織がございますけれども、市役所、あるいは国土交通省と連携をとりながら実践をされている事例でございます。これは、町なかの電柱に避難所、それから、想定される浸水深さを表示されたものでございます。洪水時の避難所ということで、朝日公民館ということで、平仮名で子どもたちもわかるように

書いてありますし、矢印で450メートル道なりということで、どの場所に行けばいいのかというのが一目でわかるようになっていきます。そしてまた、これは100年に一度を想定されておりますけれども、最大の浸水深さ、この地点では2メートルの浸水が起こる可能性がありますという表示でございます。この表示につきましては、本当に朝日町の皆さん御存じと思っておりますけれども、子どもたちからお年寄りまで、だれが見てもわかるようにされております。特に子どもたちは立ちどまって、みんなで指をさしながら確認をしている姿も見受けられましたけれども、非常にいい取り組みだというふうに思っております。この表示について、どのように総括をされているのか、そしてまた、今後の展開、予定等ございましたらお示しをいただきたいと思っております。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

この朝日の、何というんですかね、電柱に張りつけたサインですね、これは本当にいいですね。私はこの近辺、大阪マラソン、フルマラソンの出場に向けてよく走りますけれど、やっぱりこれがあるととないとじゃ2つ違うとですね。1つは、2メートルと言ってもなかなかわからんわけですね。しかし、ここに書いてあって電柱に書いてあったら、その2メートルがどんくらいかということと、朝日公民館まで、例えば400メートルというとの、ああ、ここからまだ400メートルもあるとねということがわかるという一つのことと、もう1つ大事なことがあってですね、これ町民の皆さんたちに安心感を与えるわけですね。そういう意味ですと、これは事務方から聞きましたけれども、武雄河川事務所とうちのまちづくり部とこれは朝日のまちづくり協議会ですかね——が3者一緒になってこういう活動を進められるということを知りましたので、私からのお願いは、ぜひこのサインを一つの朝日モデルとして、例えば久津具であるとか、例えば橋であるとか、これ見てすぐわかるですもんね。そういったことをぜひ倣ってしていただきたいというふうに思っています。それが私は絶えず見ることによって、ああ、自分の避難場所というはここねとかいうふうになると思っていますので、ぜひそういったことでの御理解と御協力をお願いしたいと、このように思っております。

いずれにしても、この朝日はもともと高橋ですよ。もう私も小さかったころに、もうボートが出るぐらいのところだったんですね。古賀前副市長さんの家はごっとい浸いよんさったです。そういったところで、やっぱり危機意識というのは、特に高橋地区では中心にあるですもんね。これが広がっていくように、我々としてもぜひこれは広めていきたいと、このように思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里已君）〔登壇〕**

今、自主防災組織ですか、お聞きしますと、武雄市内で大体7割ぐらいの行政区が組織されておるといことでございますので、この住民に一番近いところの防災組織でありますので、カバー率を100%まで持って行っていただいて、こういったいい事例については御検討いただいて、導入をぜひ進めていただきたいというふうに思っております。

それでは、防災組織等についてはこれぐらいにして、次に、この震災にまつわって、東北地方、非常に市役所の機能が失われたところがたくさんございます。武雄市役所を見ますと、建築をされて半世紀近く経過をしておるわけでありましてけれども、もうそろそろ新しく建築をする時期に来ているのではないかというふうに思います。

それと、一番目につくのはエレベーターですね、市役所の2階までしかございません。最上階の4階までないわけですね。全国的に見て回っても、また聞いても、エレベーターが最上階までない市役所というのは聞き及んだこともありませんし、見たこともありません。それから、一番市民に有効活用をしていただかなければならない1階のフロアが機械室になっている、空調室ですね。これで場所がつぶれております。ぜひ時代に合った市役所、将来の市民のための役所づくりも必要かというふうに思いますけれども、この点につきましてどのような計画をされているのか、お伺いしたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

私、5年前に皆さんたちのおかげで市長に就任させていただいて市長になっておりますけれども、途中ブランクもありましたけどね。これほど使い勝手の悪い市役所というのは、私は古今東西見たことないですね。

それとともに、さっき議員からありましたように、これもともと昭和41年に建っておるわけですよ。もう奇抜なデザインですよ。もう本当に使い勝手の悪い。その当時はよかったかもしれないですね。ただ、時代に応じて用途が変わっている。もう議員の皆さんたち特に御案内だと思いますけど、たったこれだけの雨ですよ、1階のところ、あそこからどんどん水を吐き出しておるとですよ。こういうのがですね、安全・安心のセンターであり得るわけがないんですね。

しかも、これ上野議員からよく御質問がありますけれども、4階までエレベーターがないということと、それともっと問題があります。これ私の考えですけど、武雄に大きな地震が起きたとします。一番早く倒壊するのは多分この市役所です。だって構造上そうですもんね。だって、せり出したところは1階なかわけですよ。中央公園にせり出したところはない。それとともに、私もいろんなところを見えますけど、もともと構造が、これほど柱の甘いところはないんですね。

となると、何を申し上げたいかという、今、耐震診断を進めています。耐震診断の結果が恐らく年内に出ます。その中で、耐震診断の結果を踏まえて、これは議会の皆さんたちにも入ってもらって、庁舎のあり方の検討委員会をつくります。整備については、これ今、さほどお金のかからない方法というはあるんですね。例えば、淡路市役所とか、あの震災に見舞われた後の淡路市役所というのは、私が聞き及ぶ限り4億円から5億円でつくっておるわけですよ。普通やっぎ、15億円から20億円かかるわけですね。そういう今構造が、これ耐震じゃなくて、共振ですもんね。共振構造になっておるわけですね。一緒に揺れるて、淡路で。ですので、そういう意味で、整備についてもなるべく市民負担をかけないためにも、合併特例債の対象期間内、平成27年に一定の結論を出して、それで施設整備が必要とあれば、議会の皆さんたちの意見をよく聞いて進めてまいりたいと、このように考えております。

**○議長（牟田勝浩君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里己君）〔登壇〕**

市役所の建設に当たっては、私もそう市民のためにはならないだろうというふうに思っておったんですけども、今回の震災を受けてね、この市役所といったものは市民の財産なんですね。多くのお客さんがおる、そして物がある、そしていろんな情報が詰まっています。このことを必ずやはり我々は責任として守らにやいかんというふうに思いますし、また、仙台市役所に今回行かせていただきました。野田議長さんやったですかね、この方がおっしゃられましたけれども、ちょうど震災が起こったときに、一番パニックになったのは市役所だと。市街地の中心にありますけど、市民の皆さんが大勢市役所に避難してきたんですね。だから、避難所になっているんですね。そういうこともございますので、やはり市役所の位置づけといったものをもう一度考えていく必要があるというふうに思っております。

それからもう1つ、九州新幹線の西九州ルートが今着々と工事に入っております。そういう状況の中で、この武雄市役所もそのルートの沿線にあるというふうにお伺いしておりますけれども、その青写真がどのようになっているのか、市民の皆様にお示しをいただきたい。そしてまた、そのルート上になった場合、市役所にどういった影響を与えるのか、お伺いをしたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

（パネルを示す）具体的に図面をつくりましたので、これで答弁をしたいと思うんですけども、下のほうが川端通りですね。それで、中央公園がここで言うと、右側ですね。これを見ておわかりだと思っておりますけれども、この赤の線の部分の下が鉄道・運輸機構が用地買収している。これないですよ。これ。これやったら駐車場86台分がペアなんですよ。もう

中途半端もいいところですね。ですので、私はこれね、鉄道・運輸機構にちょっと改めて、これ私が市長に就任させていただく前にもうこの話、合併前から進んでいる話なんですけれども、これ全部買うてくださいますかと言おうと思って。これだけ中途半端になったら、もうここ使われんですよ。しかも、じゃここに高層階を建てるか、あるいは立体駐車場をするか、ユニバーサルデザインの時代のときに、それ私は市民になかなか言い切らんですね。ですので、これ本当にもうここまでといったら、ほとんど市役所の機能がなくなるということもありますけれども、ちょっと一たん私ね、機構の理事長に言います。言うた上で、これちょっと余りにもあんまりですよということを言って、ただ、さっき庁舎の建てかえの話をしましたけれども、もしそうであった場合に、もともとここがみんな市の中心と思っておるわけですよ。ですので、これを移転するかどうかというのは、きちんと議会を初めとして、市民の皆さんたちの判断を仰ごうと思います。その上で、先ほど吉川議員からありましたように、今回、震災があったときに、やっぱり市民、町民は役所に駆け込むわけですね。ですので、そういうことを考えたときに、恐らくこれで建てかえた場合に駆け込み寺になるかって、なった場合に、多分なりません。ですので、そういったことも踏まえて、市民の皆さんたちのいろんな意見を聞いて、その上でしっかりしたプランを立てたいというふうに思っています。今の状況はこういうところであります。

**○議長（牟田勝浩君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里巳君）〔登壇〕**

鉄道・運輸機構ですか、そちらのほうと打ち合わせをして協議をして進めていくということで、ぜひお願いをしたいというふうに思いますけれども、先ほど27年というふうな話がありました。もう合併をして5年です。あと4年余りで合併特例債を使用できる期限が過ぎるわけでありまして。ぜひそれを活用してやっていただきたい。

そしてまた、先ほどから耐震診断をして耐震でいくのか、新築でいくのかというふうな判断を今年度するというふうなことでございますけれども、もう半世紀近くになっておることによって、仮に耐震補強で逃れたとしても、相当な改修費用がかかります。そしてまた20年ぐらいたれば、恐らく新築をしなければならないというふうな話がまた出てこようかというふうに思います。そういうことも踏まえて、ぜひこの合併特例債、95%起債の70%交付税措置ということで非常に有利な財源でありますので、そういったところも考慮していただきたい。

そしてまた、20年後に新築を決断するとなると、これ市役所建設には補助金がありませんので、市民の税金で、一般財源で賄わねばならないということで莫大な費用がかかります。私としては市役所の駐車場の関係もありますので、この現地で新築をしていただきたいということを強く要望しておきたいと思っております。

それから、市役所についてももう1点でございますけれども、先ほども言いましたように、

市民の皆さんにとって本当に貴重な財産がたくさんあるということで申しました。市役所として防犯対策、セキュリティー面がちょっとおそろじゃないかなというふうに思っております。いろいろなもの、いろいろな情報がございませうけれども、ぜひ防犯カメラを設置すべきだというふうに思います。市役所は市の防犯協会を統括されておりますけれども、防犯協会でも防犯カメラの設置を推進されております。ぜひ市役所が率先して防犯カメラ設置をしていただきたいと思いますけど、この件いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう本当にすみませんと思いますね。当然、個人情報のるつぼみたいなところなんです。その中で、私は防犯カメラというのは当然設置されていると思っていたんです、この5年間。でも、やっぱり通告を聞いて調べてもらったら、ない。これは別にほかの市もほとんどないんですよ。ですが、やっぱり個人情報の関係であるとか、さまざまな書類があるということからすれば、防犯カメラがないということはもう恥ずべき状態だと思いますので、防犯カメラ設置します。しかも、複数設置します。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里巳君）〔登壇〕

ぜひ早急な設置をお願いしておきたいと思います。

それから、市民の安心・安全を守る消防団についてでございますけれども、今年度から消防交付金200万円を新年度予算で措置していただきました。これは初めての取り組みで、消防団の末端のところで必要な備品等を購入することが可能になったわけでありまして。これはまさしく川口団長、それから、ここにおられる末藤副団長、皆さんの英知で要請をされて、市役所がそれに対応していただいたわけでありましてけれども、この件の進捗状況について伺いをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

消防交付金につきましては、既に交付要綱を定めております。これに基づいて今年度交付申請を行って、交付というような形になろうかと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里巳君）〔登壇〕

これからするということですね。よろしくお願ひいたします。

それと、今回の東日本大震災におきましても、消防団員の皆さんの活躍といったものはいろいろと報道をされておりました。

武雄市ですけれども、武雄市の市の消防本部ができたのが昭和39年ですか、できて、そのときに常備消防ができた。消防団と常備消防が分かれたということでございますけれども、その後、昭和48年に杵藤地区の広域圏の消防本部ができて、そちらのほうに移行されていると思います。当時、この常備消防と非常備消防の役割分担、これはどのように協議をされてきたのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

先ほどの消防交付金でございますが、ちょっと補足説明いたしますと、今後、消防団の幹部会議のほうで十分説明してから、次の事務的な作業をしたいというふうに思っております。

消防団と常備消防の役割分担でございますが、常備消防につきましては昭和48年に広域圏組合で発足いたしております。これは、社会の生活様式、それが複雑多様化しているということで、従来の消防団の活動だけでは十分に対応できないということで、24時間、それも救急救助、予防、そういう専門の職員が対応するというところで設置されたところでございます。

消防団につきましては、秋等の火災予防週間、あるいは火災発生時の消火活動、そういうところを主に行う機関として組織されておまして、消防団員の皆さんは、通常、御自分の仕事をお持ちになって消防団活動に従事されていると、非常に大変な業務をお願いしているというふうに思っております。消防団の活動によって市民の皆さんが安心して生活できるという状況をつくっているというふうに思って感謝いたしております。

以上でございます。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里巳君）〔登壇〕

消防団員の皆さん、本当に自分の職業につきながら、その合間を縫って防災活動、消火活動に当たっておられるわけであります。

そういう状況の中で、消防団員の今の就業構造についてちょっと見てみたいと思います。

（パネルを示す）これは、サラリーマンの占有率を時系列にあらわしたものでございますけれども、昭和43年、ちょうど武雄市の消防本部が設置された後ですね。そのときは26.5%、すなわち4人に1人の方がサラリーマンであった、そういう状況の時代でございます。それから約半世紀たった今、平成23年、80.9%の方が今サラリーマンであります。現在の総団員数が1,420名、そして何とそのうちのサラリーマンは1,150名なんですね。これは時代とともに

にこういう就業構造が変わったということでございます。

そういったところから、消防団に対して、今いろんな年中行事が行われております。そしてまた、今回、大震災等も起こりました。そういったことで、実践に即したものに、やはり時代に合ったものに少しずつ変えていく必要があるんじゃないかという声はいろいろと上がってきております。そしてまた、一番消防団員を支えているのは家族の皆さんなんですね。家族の皆さんにとっての本当に実のある消防団活動にしていかなければならないというふうに思っております。そういうことで、ちょっとフリップを。

(パネルを示す) これは、消防団の活動環境ということで一覧表にしたわけでありましてけれども、上から順番にちょっといきたいと思えます。ちょっと字が小さいかわからんですけど、1番目に操法大会の練習、これは武雄市においても今、7月3日の大会に向けて、各分団の選手の皆さん、本当に一生懸命活動をしていただいております。けさも私、ちょうど当番日で、朝4時半に起きて駆けつけて、6時半まで練習をしてまいりました。この操法大会の練習、長過ぎます。1カ月半かけてやっている。回数的には20回ですね。1日当たり2時間。先ほどの就業構造からいってもサラリーマンの方はいます。2交代、3交代の方もいます。そういうところも十分やはり考慮した上で、ぜひ短期間での対応をしていただくように協議をしていただきたい。

なぜそういうふうに言うかということ、現場でやはり見ていて、この操法大会の基本は、ポンプの操作手順をきっちりとマスターすることが主力にあると思うんですけども、この練習の、あと後半は何を求めているかということ、コンマ1秒をいかに早く消すか、タイムなんですね。タイムを要求されます。きょうも練習のときはかったら50秒でやっていましたけど、これを45秒まで持っていかなばということ練習をやられています。

そしてまたもう1点、もう1点は、シンクロをいかにきわめるか。シンクロというのは同期ですね。選手が4人いますけど、4人が乱れず、きれいに評価されるように訓練を何度も繰り返します。ですから、あとはもうレベルの問題だと思うんですね。操法大会のあり方についてもぜひ一回振り返って協議をしていただきたい。

それから、夏季訓練、それから幹部訓練もございますけれども、これは今、礼式中心になっています。各個訓練、通常点検。各個訓練というのは、気をつけとか、回れ右とか、右向け右とかの練習ですね。通常点検、これは服装点検を中心とした訓練でありますけれども、この夏季訓練でこの礼式が1時間ちょっと行われています。幹部訓練になると、これとプラスアルファありますけれども、40分の3セットの練習をしている、訓練をしている。今回の震災を受けても、実践中心の訓練にカリキュラムを考えるべきだというふうに思っております。去年から夏季訓練にはAEDの実習とか、そういったものも考えていただいておりますけれども、全体的な見直しが必要かというふうに思います。

それと3点目、年末警戒、12月28日、29日、30日、3日間今行われております。時間が午

後8時から早朝の何と4時まで、消防の詰所に泊まり込んで警戒をすると。市役所は28日が御用納めで、それから休みになるからいいわけですけども、一般の中小企業は28日で休みのところは余りなかですね。29日、30日までお仕事されています。そして2交代、3交代で勤務されている方もいます。そういうことを考えて、ぜひこの期間短縮と時間短縮、やはりもうその日の24時には一たん警戒をやめるといぐらいの見直しが必要かというふうに思います。（「同感」と呼ぶ者あり）

（パネルを示す）これちょっとインターネットで事務局に調べてもらいましたけれども、2日間でやっているところを検索してくださいと言ったら、すぐに出てきたのが6市ほどありましたけれども、12月29日、30日、2日間は大体どこでもやられていますね。30日、31日のところもありますけど、こういうふうに短縮されておるところは時間帯も短くなっている。午前0時まででもう打ち切りです。早いところは午後10時にはもう終わるといふうなことになっておりますので、ぜひこういった先進的な取り組みを検討いただきたいと思いますけれども、市の統括をされている市長として、この消防団活動の見直し、いかがでしょうか。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

まず、川口団長さん、そして末藤副団長さんを初めとして、消防団の皆さんたちの常日ごろの活動には、市を代表して敬意を表したいと思います。

その上で、私もう常々思っておることがあって、長過ぎます。例えば、先ほど話がありましたように、私も朝、訓練を見に行ったりします。「何時に起きたですか」と聞いたら、4時半で。それで、私はそのときには、ああ、これ二、三日で終わるとかなと思ったら、「どんくらいですか」と言ったら、やっぱり一月半とか一月はかかるという話。毎日じゃないそうなんですけど。

ただ、これ今の情勢を考えた場合に、昔は農家の皆さんたちが多かったと思うんですね。サラリーマン20%で、あとほとんど農家の皆さんやったと思うですよ。それが逆転して、今8割の方がサラリーマンであるといったときに、通勤でも1時間かかんさる人もおんさるわけですよ。考えたときに、やっぱり時代に応じて変えんばいかんと私は思うんですね。しかも、これ消防団の幹部の人にも何人か聞いてみました。いんにゃ、これ全部分団に任せとんもんねて、それじゃだめだと思えますよ。分団は何を見るかという、やっぱりトップを見るんですよ、トップを。私たちも一緒です。市役所に、私は絶対、部任せにはしません、こういったことは。まず、方針をきちんと出して、幸いにして、やっぱり今、最強のコンビなんですよ、川口団長と末藤副団長。ここでできんぎ、もうできません。ですので、末藤さんは目を伏せられましたけど、とにもかくにも、そういう強力なリーダーシップをぜひ発揮してほしいと思いますよ。私の答弁を聞いて、みんなもう期待していると思いますよ。

それと、もう1つです。年末警戒、これも長過ぎます。先ほどありましたように、仕事が例えば30日までという方もたくさんいらっしゃいます。そして、年末はやっぱり御家族そろって過ごすというのが私は日本の文化だと思いますよ。それで、年を一緒に越していくと。そのときにやっぱり大掃除とかあるじゃないですか、大掃除。そういうことで、ぜひこれも見直ししてほしいと、私も市を代表する立場からもそう思います。そういったことで、消防団におることがやっぱり次のモチベーションにつながっていくというふうになっていけばありがたいというふうに思っていますので、それと、訓練内容も、これ私がどうこう言う話じゃありませんけれども、やっぱりそれも実践ということは、この前の震災を受けてよく思いました。

そういった意味で、繰り返しになりますけれども、ぜひここは、私、もう川口さん信頼しています。川口、末藤コンビで、うちの樋渡、前田コンビと同じごと、強力な大なたを振っていただければありがたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里已君）〔登壇〕**

はい、ありがとうございます。

ちょっとここには書いておりませんが、出初め式ですね、これも川口団長、それから、末藤副団長にかわってから物すごく中身が充実して短時間に対応されている。本当に団員の皆さんからも評価が高うございます。ぜひ中身を濃くして、時間は短く、よろしく願いをしたいと思います。

そして、あと3点ございます。火災メールの登録ですね。1,420名の団員の皆さんのうち、490名が登録をされておるといことです。34%。これは団員の皆さんの3人に1人しか登録がされていません。わずか3人に1人です。やはり有事の際、火災等が発生したときには、一番に知らせにゃいかんのは団員の末端の皆さんです。その方に確実に場所と内容を知らせる方法としては、この火災メールが一番であります。ぜひこれは市としてね、100%を目指して導入させるように指導をすべきだというふうに思います。町外とかに団員の皆さん出られているときには、自分のまちで火事のあいようかどがわからんわけですね。ですから、そういう意味で携帯メールを使った発信をぜひ広げていただきたい。

それから、5番目、消防無線の配備、これは武雄町、山内町、北方町、これは配備されているそうです。私が言うのは高度な無線機じゃなくて、携帯の無線機で十分であります。行方不明者を検索するとき、あるいは実際、有事の際、火事が起こります。そのときに、火点と水利、離れておりますので、その情報の伝達は、やはりもう今ハイテクを使って、そういう無線を使ってやるといったことをぜひ拡大していただきたい。

それから6番目、組織の強化、これは参加者に偏りが非常にあります。団員の皆さん、日

ごろの点検、あるいは訓練、そしてまた有事の際、来る団員は一生懸命協力して来ていただきます。しかし、年間を通じて1回も来ない団員の皆さんも現実にはおられます。そういう問題。

それと、団員確保ですね、これに非常に苦慮しています。地域によっては50世帯で1つの部が存在したり、600世帯で1つの部が存在したり、定員はかわらないとか、そういうことで非常に新入団員の確保が難しいという嘆きも聞いております。ここもやはり部の組織のあり方を再編すべきではないかなというふうに思いますので、その辺も十分もう協議をする段階に来ております。ぜひお願いをしたいと思います。

それからもう1つ、有識者と書いておりますけれども、やはりいろんな取り組みを今後加速させていくためには、市の幹部の方に外部の有識者をやはり一、二名入れて、副団長クラスでもいいですし、そういうアドバイザー的な人を入れてもっともっと活性化をしていく、そういうやり方も必要ではないかというふうに考えておりますけれども、この3点、武雄市役所の市長としてどうでしょうか。

#### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

まず、先ほどの答弁でちょっと申し忘れたことがあるんですけど、私が市長に就任させていただいたときに、大坪団長、前団長さんですよ、一緒に取り組んでまいりましたが、大坪さんのときからかなり改革というのは進んでいて、ただ、私が問題だと思ったのは、これは私が言うてどうかかなと思うんですけど、例えば、私の任期は、人気ありませんけどね、任期は4年間。それで、この4年間というのが一つの基本なんです。しかし、消防団の団長さんは2年でかわんさるわけですよ、2年で。これじゃね、腰を据えた改革はできませんよ。ですので、私とすれば、今回はもう2年というふうに決まっていますけれども、もう行く行くは4年にしないとね、腰を据えた改革というのはできないというふうに、私自身はそのように思っています。

ただ、やっぱり伝統というのにも必要なんですね。長く培ってきた伝統というのがありますので、伝統の上に改革をするという姿勢が求められているんじゃないかなというふうに思っています。

その上で、火災メールの登録で34%、低過ぎ、低過ぎます。そこで、これはちょっとプライバシーの問題等ありますけれども、私としてこれ技術的な問題もありますがね、メールアドレスは聞いて、もう市役所で登録します。例えば、山口良広議員、いつもごめんなさいね。山口良広さんが登録をしていなかったら、メールアドレス、携帯使いよんさるですよ。はい。使いよんさっぎ、そのメールアドレスをこっちで聞きます。聞いて、そこでもう登録します。実際、この登録が面倒くさかという人、結構おんさつとですね。ですので、もう聞き

取りでもどういうふうにするか、これから考えますけれども、もう一元的にこっちが強制的に登録します。そうすることによれば、もう登録の手間も省けるわけですね。ですので、そういうふうにして、もう可能な限り100%というのを目指したいというふうに思っています。やっぱり情報がないということが、この前の大震災のときでもそれが命取りになっとうとですね。やっぱり情報の行き渡っているところのエリアの方々というとは助かっとなさっわけですよ。しかし、その情報が行き渡らんで、携帯メールもそうですけれども、行き渡らんところは100世帯みんな亡くなったりしとうわけですね。この情報の持つか持たないかというのが生死の分かれ目になるという観点からすると、先ほど私が申したようなことについては皆さん御理解をいただけるというふうに思います。

消防無線の配備については、これについては、この前の大震災を受けて、どれだけ効果があるかというのをこっちも検証する必要があります。私も訴えられていますので、予算がないわけですよ。予算がありませんので、そういった中で、費用対効果をきちんと見て、これが本当に必要ということであれば、市民の生命、財産を守る観点から、これは進めてまいりたいと思っております。これはしばしお時間をいただければありがたいと思います。

組織の強化については、参加者の数については、これは私のほうにも入ります。例えば朝日町、朝日町なんかは各区でもうあるわけですね。全部で人数が8人でしたっけ。（「13」と呼ぶ者あり）13人、全部一定なんですね。例えば、人口の少ない繁昌でも13人、甘久でも13人というふうになると、これはちょっと余りにも余りなんですね。ですので、例えば繁昌と川上と黒尾と一緒にするというのも一つの方法だと思うんです。しかし、でもこれはさすがに我々というか、消防団の上位、あるいは我々から言う話じゃなくて、1回、分団ごとに話をしてほしいと思います。それに応じて柔軟に決めるというのが、今の私はある意味、消防の地域主権の一つの流れだと思っていますので、これも末藤副団長と目が合いましたので、ぜひお願いをしたいというふうに思います。

そしてもう1つ最後に、副団長に外部から有識者を招くべきじゃないかということについては、私もこれは賛成です。全部同じ組織の中に同じ系統の人だけいると、やっぱり組織で弱くなりますもんね。今の武雄市役所が、今、割と高い評価をいただいているわけですね。それはなぜかという、Iターン、Uターンで、例えば山田恭介んごたつとの入ってくるけんなんですよ。小松政とか、だから、組織というのが多様化で強くなっているんですね。そういった観点からすると、ぜひ消防団も本当のプロパーだけじゃなくて、やっぱり外から、これはOBの方でもいいと思いますよ。OBの方でも一たん離れて、高齢者消防について語れる方というのはやっぱり年配の方しか語れないんですね。そういう意味で、消防団の外の方、あるいは一たん離れた方を組織の中に入れ込むというのは私は大賛成ですので、ぜひこの観点からも消防団の、特に幹部の方々におかれてはね、検討を進めてほしいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里已君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。

（パネルを示す）これはインターネットからの資料でありますけれども、操法大会について、平成17年には練習中に心筋梗塞等によって死者も出ておられるようでございます。そしてまた、大体年間に733人ぐらい団員がけがをされているというふうなことで、非常に過酷な訓練になっているということもありますので、そういったところも踏まえて、全体的にぜひ検討していただきたい。

そして、僕のいつも持論でありますけど、まずやってみようと、悪かったらまた戻せばいい、そういう感覚で僕はいますので、ぜひその辺も柔軟に検討をいただいて実施に移していただきたいなというふうに思っております。

それでは、消防はこれぐらいにしておきます。

次に、道路についてでございますけれども、今回の統一地方選挙が4月に佐賀県武雄市も行われました。県議選ですか、震災の影響があったというふうなこともありまして、選挙カーでの運動時間を午前10時から午後6時までに制限をされ、これは申し合わせだったというふうに思いますけれども、自民党からの提案で、たまには自民党もよかことば言うにやというふうに思っておりますけれども、諸外国では選挙カーを使って街宣車でスピーカーで高く音量を出して選挙運動するところはまずありません。日本が恐らく唯一だというふうに思っておりますけれども、外国では騒音にみなされるわけですね。そういうことも踏まえて、これは総務省の問題かも知れませんが、今回、そういったことで時間短縮して、市民の皆さんからも恐らくそういった問題の苦情は余り上がっていないというふうに思っております。法的にはできないかも知れませんが、申し合わせとしてね、こういう選挙カーを使った運動も短縮していくということもいいんじゃないかなというふうに思っておりますけれども、市長が今回の統一地方選挙に当たられて、どのような認識を持たれたのか、また、今後どのようにしていこうと思っておられるか、お伺いをしたい。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、本当たまには自民党もよかことば言いますね。やっぱりよかったという声が、これは吉川議員が先に言われたあれですね、最終日の投票時刻を繰り上げたということと並んで、私も市民の皆さんたちと触れ合う中で、本当にこれはいいという話がありました。やっぱり思えば、もう古い、もう名前ば連呼したり、一番元気よくやっていたのが私ですので、説得力ありませんが、もう古いですね。これは、でも個人の問題ではなくて、本当は法律でやる

べき話なんです、それはなかなかできないとすると、佐賀県議会というのはいい議会だと思います。石丸博先生と稲富先生が今頑張っておられますけれども、ぜひ今回ね、次の選挙は4年後だと思います。（「3年後」と呼ぶ者あり）あっ、3年後か、3年後の市議会ぜひその申し合わせをしてほしいと思いますね。私は、これまだ出馬宣言じゃないですからね。私がもし出れば、私はもう申し合わせになくともね、私はもう10時、6時ということをやりたいというふうに思います。やっぱりまず「隗より始めよ」だと思います。そういった中で、私自身は、もし出ればですよ、出ると思いますけど、そういうふうにしたいたいというふうに思います。今度は任期途中でやめないように努力をしたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

道路ということで、この選挙カーは道路を占有してまいります。そこに2台、3台連ねて選挙運動されているところもありますので、そういったことからすれば、やはり市民の生活にとっても非常に不都合を来しておるところも多々あるようでございますので、そういったところもぜひ申し合わせでやっていければというふうに思っております。よろしく申し上げます。

それから、JRの高橋駅の整備につきまして、さきの私の一般質問で、デッドスペースになっているところが約半分あるということで、ぜひ利用者のために有効活用できないかということで御提案をさせていただいておりましたけれども、その整備状況についてお伺いをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

お答えいたします。

昨年、JR九州佐世保事業部に対しまして、議員御指摘の高橋駅前広場の未利用地を活用して、もう少し広くしてもらえないだろうかというお願いをしたところ、昨年の10月に整備をしていただいたところでございます。今までの送迎車ベースに比べますと倍以上に広がっておりますので、現在では雨天時の送迎等、混雑も緩和されているということで、駅利用者の利便性が図られたというふうに思っております。

写真で説明いたします。（パネルを示す）これが整備前の状況です。（パネルを示す）こちら側が整備後の状況で、（「あんまり変わらんばい」と呼ぶ者あり）写真の撮り方が悪いかもしれませんが、一応そういう実績が上がっております。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

**○12番（吉川里已君）〔登壇〕**

はい、ありがとうございます。交通事故という観点からすれば、本当に危険が随分と回避をされたんじゃないかなというふうに思っております。市役所の皆さんのJRに対する協議、本当にありがとうございました。

（パネルを示す）それからもう1点、これは498号ですね、朝日町の川上地区でございます。ここも歩道と車道の改良工事が今進められておりますけれども、ちょうど淀姫神社付近ですね。約200メートルにわたってまだ手つかずの状態になっておるようでございますけれども、ここの進捗状況等についてお伺いをしたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

これは、もう三十七、八年前ですね、以前、黒尾のほうに第二保育所があつて、そこから通いよつて、再三事故が起きたところなんです。直近でも車が子どもをはねたということで、ここは非常に見通しの悪いところなんです。これね、何でこれが進まないのかというのは非常に不思議なんです。これ普通やれば、こんなのすぐ済む話なんです。

しかし、地権者の方々も複数いらして、境界でもめておるらしかですね、境界で。ですので、私自身とすればね、境界でもめるのが悪いとは言いませんよ。しかし、これはね、子どもの命がかかつたわけですね。そういったことを踏まえて、ぜひ、これは子どもの安全・安心のために、境界でもめている方に対して私は言いたいのは、やっぱり小異を捨てて大同についてほしいということです。そうしないとね、これは本当に、この前、不幸中の幸いですよ。はねられて、すぐね、あのときは周りの川上の人たちから電話が入ってきました。入ってきたときに、もう背筋のぞつとしたですもんね。本当にここは危ないところです。ですので、私はね、黒岩議員に感謝を申し上げたいのは、あそこの黒尾のところも危なかったところなんです。見通しが悪くてですね。しかし、この一般質問でやっぱり民意というか、世論が、あれは解決せんばというふうに動いたわけですね。やっぱりこの一般質問で重いんです。それで、30年間滞っていたこと、だれも関心を持たなかったことがやっぱり一気に進んだわけですね。そういった意味から、私は、これを最後にしますけれども、ここはね、絶対せんばいかんというふうに思っていますので、ぜひね、地元でしょう、協力をお願いしたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里已君）〔登壇〕**

なぜこの質問をするかというのと、ちょうど4月に、ここ498号と市道の黒尾線、これ3差路になっておりますけれども、ここで自転車と自動車の出会い頭の事故があつたわけであり

ます。ちょうどその事故のときに思い出したのが、私もここ光武商店、いつも行っておりました。ここに渡るときに、ちょうど幼いころですけれども、ひかれたことがあります。非常にやはり危険だなということで、ぜひここは時間かかっても改良をしなければならないというふうにまた再度認識をしたところなんですけど、まず、4月に事故が発生した直後に建設課のほうに早急に対応をお願いしましたけれども、まだできていないようでございますけれども、どういった対応をされているのか、お伺いしたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

石橋まちづくり部長

**○石橋まちづくり部長〔登壇〕**

御指摘の件でございますが、現地につきましては、カーブミラーの設置、それから、停止線等をちょっと工夫してみようかということで、現在、工事は発注しているところでございます。近日中に整備をしたいというふうに考えています。

**○議長（牟田勝浩君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里已君）〔登壇〕**

ぜひ早急に対応をしていただきたいというふうに思いますし、この朝日町の川上で死亡事故、私が記憶する範囲で2件、今もう40年になりますけれども、2件覚えがあります。きのうの山口議員の話じゃないですけど、そういう対策を打ちなさいと言われておいて、それを野放しにして、事故が起きてから解決をするといったこと、最悪の事態ですね。ぜひそれだけは避けていただきたい、このように思います。

地権者の境界境等で今話がついていないということでもありますけれども、その分については、私たち議員も中に入り込んで協力をさせていただきたいと思います。

ただ、そのかわり、ここは県が主管であります。ぜひ県任せに市もしないでほしい。一番住民に近いところの行政でありますので、県と一緒に地権者のところに協議に行つて合意を取りつける、こういうことは必要だというふうに思います。あと残された区間わずかありますので、ここが整備できるように頑張っていきたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

武雄土木事務所に確認したら、県の名誉のために言いますと、やっぱり土木事務所もここは絶対せんばいかんてもう言いよるわけですよ。しかし、地権者の同意がとれとらんけんができませんと言うわけですね。ですので、じゃ全員の地権者が全部同意しておらんとか聞いてたですよ。そんなことはないって。ですので、先ほど言いましたように、やっぱり「小

異を捨てて大同につく」、特に市民の子どもたちの生命、財産を守るためにね、ここはぜひ、地権者の方々に訴えたい。あなたが、あるいはあなた方が同意すれば、これは進むんですよ。ですので、ここはいろんな今までの歴史的な経過があるかもしれませんが、しかし、ここはそういう土地だということをご理解していただきたい。その中で私も思います。これを県任せにしていたら、進むものも進まない。黒岩議員を見倣って、やっぱりこれは市民の生命、財産ということになったときは、これ市議会議員の力と我々行政の力が一緒にならんぎ、これは進みますね。そういうことで、幸いにして今、力のある石橋幸治部長が今いますので、一緒になってね、地元の説得に、あるいはこの必要性を県に対して、そして地域住民の方々に対して訴えてまいりたいと、このように決意をしております。

**○議長（牟田勝浩君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里己君）〔登壇〕**

よろしく願いいたします。

（パネルを示す）それでは、これは市道閻魔王線でございます。この隣に栗原住宅から朝日の小学校まで通ずる武雄高橋線がございますけれども、そこについては市のほうで対応していただきまして、歩道の設置、あるいは道路拡幅ということで、今年度いっぱい完成するというところで本当に期待をしております。

その市道武雄高橋線からちょうど中間から閻魔王線というところに入るわけでありましてけれども、この先が佐賀女子高等学校、その先が武雄中学校に通ずる箇所でありましてけれども、このところも非常に急カーブで見通しが悪いです。先が見えない非可視の状態になっていて、過去には自動車の事故も発生をしております。幅員も狭い、そして小・中学生、高校生の通学路にもなっております。こういった危険箇所についてはぜひ優先的に改良計画を立ててやっていただきたいというふうに思っておりますけれども、執行部の見解をお願いします。

**○議長（牟田勝浩君）**

石橋まちづくり部長

**○石橋まちづくり部長〔登壇〕**

確かに当路線の御指摘いただいた区間につきましてはカーブとなっております、見通しも悪く歩道もない状況でございます。現在のところ、カーブ中間付近にはカーブミラーですかね、それと、減速の警告の看板を設置して対処はしているところでございます。しかしながら、御指摘がありましたように、確かに危のうございますので、この区間の改良については、まず現地調査に入りたいというふうに思います。

なお、単独歩道につきましては、経費等の問題がございますので、当路線は大体幅員が5メートルから6メートル程度でございます。路肩部をできるだけ利用して歩道を確保したいというふうに考えます。

○議長（牟田勝浩君）

12番吉川議員

○12番（吉川里已君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。よろしく願いいたします。

それから、医療についてでございます。安心・安全のまちづくりの医療について、6月1日にいよいよ新武雄病院がオープンをしたわけでありましてけれども、樋渡市長はこのオープンとあわせて医療を中心としたまちづくりも取り組んでいきたいということでお伺いしております。その中身について若干御説明をしていただければというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとパネルを用意していますので。（パネルを示す）これサガテレビで30分番組で報道されましたけれども、やっぱり新たななる挑戦なんですね。我々からすると小さなまちの大きな挑戦なんですね。新武雄病院を中心としてやっぱり医療のまちづくりを進めていきたいというふうに思っているわけです。

（パネルを示す）ある方は、きのう山口昌宏議員に——僕は信じておらんですよ——ここに招待された方が、北方のゴルフコンペに行っとったという話ですけども、それはさておいても、1,800人の方々がこのように集まっていただきました。本当に市内から、この人は来てくんされんろうと思っとった方々が来てくんさったりとか、「やっぱり今まで市長に反対しよったばってんが、もうこれを機に忘れてくんさい」と。私は忘れるのは得意ですので、一緒にやっていければいいなというふうにも思っているわけです。

（パネルを示す）これが開院式典の中のメンバーなんですけれども、議会から牟田議長を初めとしてさまざまな議員にお越しいただいて、皆さん方から見てこっちのほうにお医者さんが集まっております。そして、きのうの話なんですけれども、実は平成15年に始まった新臨床制度で、今、新武雄病院を含む和白病院が物すごい人気なんですね。ですので、今もう断りようぐらいなんですよ。しかし、宮本栄八議員に書かれました10億円も私が損害を与えたという市民病院ですね、市民病院は閑古鳥も飛びよらんぐらいのものだったんですよ。ですので、そういう意味から、特にもう宮本栄八議員に言いたいのは、あんまりデータにないことを言うんではなくて、やっぱりもう前向きにいくということをぜひこの場をかりてお願いしたいというふうに思うわけです。

それと、これは最後にしますけれども、（パネルを示す）これは議員の中でも松尾初秋議員にもお力添えをいただいて、ここ国道34号線のバイパスに、地上から撮った写真なんですけれども、もうこれを見てもらえばわかりますように、ここはヘリポートのある病院群ですよ。そしてこっちが職員寮で、これが看護学校ですよ。これを見て皆さんがおっしゃい

ますのは、ああ、やっとわかったて、市長の言いよったとは。市長、説明は下手ばってんが、写真はうまいけんですね。これを見たときに、何を皆さんおっしゃるかという、これば中心にしてまちのでくっぞということなんですよ。ですので、やっぱり見えるものは強い。です、ここを中心として、このエリアを中心として、やっぱり我々は東部の開発地区もあって、いろんな制限もありますけれども、できるだけここを医療を中心としたまちづくりに資するような、例えば、ここに私はホテルがあってもいいと思います。あるいはここにいろんな介護つきの建物、特にここはもう場所が限られますので、マンションがあってもいいと思います。ショッピングセンターがあってもいいと思います。そういったことで、ここは新たな夢のある、本当に形の見えるまちづくりにすれば、これが例えば、今の武雄町内の旅館と連動したりとか、あるいはさまざまな開業医の皆さんと連動したりとか、そういうふうにすると思うんですよ。だから、そういったことで、これから先というのは、これはもうなりました、こういうふうになりました。ですので、課題も多々あると思います。あると思うんですけど、それを誹謗中傷じゃなくて、宮本議員、誹謗中傷じゃなくて、やっぱりこれをこういうふうに向きにしていこうということをぜひ、特にこれは議会の皆さんたちにはお願いをしたいというふうに思います。これで議会が割れていると、武雄のイメージが著しく棄損されます。

再三言いますけれども、平野議員と江原議員が記者会見をされたあの住民訴訟ですね、もう全国で我々が思っている以上に有名なんです。悪名が高いとは言いませんよ。有名なんです。ですので、このイメージというのは物すごく大事です。しかも、議員がこれを推進するということに関して言うと、これは同じ政治家仲間としてね、ぜひこれはお願いをしたいと、このように思います。私も発言とか至らぬ点はもうこれからより一層注意をして、やっぱり市民の皆さんと一緒に――余りうなずかんでよかですよ。やっていこうと、このように思っております。

**○議長（牟田勝浩君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里巳君）〔登壇〕**

本当にいい病院ができたというふうに思っております。県内外の方からも、本当に武雄はようやくのうということたくさん評価をいただいております。さらに、いろんな皆さんからももっともっとうらやまれるようなまち、医療のまち、医療を中心としたまちにぜひ夢を膨らませていきたいというふうに思いますので、またよろしくお願いをしたいと思います。

それから、以前、子どもの医療費の無料化について質問で御提案を申し上げておりました。さきの1年半前ですか、統一地方選挙で市議員選挙、市長選挙のときもそうでありましたけれども、子どもをお持ちのお母さん方から、ぜひ医療費については無料化をさらに拡大していただきたいという要望をたくさんいただいております。そういう状況の中で、前回、提案

をさせていただきますけれども、その後、こども部としてどのような協議がされているのか、お伺いしたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

馬渡こども部長

**○馬渡こども部長〔登壇〕**

小・中学生の医療費でございますけれども、小・中学生の入院医療費の個人負担を計算してみました。約1,560万円程度と見込んでおります。内訳といたしましては、小学1年から3年までが約311万円、小学4年から6年までが約395万円、中学生が約854万円と推計しているところでございまして、前に議会のほうで御提案いただきました出生祝金との関係も含めまして、今どういった形でできるのか、うちのほうで考えているところでございます。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

こども部は確かにまじめです。どこかの市議会議員さんが何と言われましたかね。何やったっけ。（「怠慢部」と呼ぶ者あり）怠慢部で書かれたんですよ、宮本栄八議員の「栄八通信」に、怠慢部と書かるっつですよ。怠慢じゃありません。まじめにこういうふうに真摯に検討してもらっているんですね。もう誹謗中傷も甚だしいですね。

その中で、私は実はこども部とは見解が違って、実際、これはせんばいかんということとは重々承知しています。私も山のようにこの話は参ります。しかしね、やっぱりこれも訴訟なんですよ。住民訴訟がやっぱり7カ月おくれおるということは、さらにまたおくれる危険性だってあるわけですよ。そのときに、どんどんどん市費がそこに投入されていくわけですよ。平野さんに言うてくれんですか、私に言わんで。ですので、私からすれば、そういったことに関して言えばやっぱりできません。やっぱり我々は財政の健全運営というのがあります。どんなにやらなきゃいけないことでも、実際、そこに市費を投入しよるわけですよ、住民訴訟に。ですので、そういった観点からすると、私はちょっとこども部と見解が分かれて恐縮だし、議員の意向とは大分ずれますけれども、今の段階ではできません。

**○議長（牟田勝浩君）**

12番吉川議員

**○12番（吉川里巳君）〔登壇〕**

実はうちの息子も春、ちょうど選挙の前ですか、春休みに入ってからなんですけど、頭が痛いと言い出して、いろいろかかりつけにかかって、最終的に精密検査のため嬉野医療センターに行って検査したら、急性の副鼻腔炎ということで即入院ということで、手術までせんでよかったですけど、1週間点滴治療したわけですね。手術はなかったんですけども、医療費が7日間で約9万円支払ってまいりました。やっぱり突発的に病気は起こりますので、

子育て世代の皆さんにとっては経済的にも非常に厳しい状況になります。ぜひこういったところをお支えしていただきたいというふうなことを私実感しました。嬉野医療センターと一緒に入院した方も5人ぐらい学生がおるとですね。結構多かいです。

そういうことで、ぜひお願いをしたいというふうに思いますし、もう1つは、財源ですね。(パネルを示す) まだこれからの話ではありますけれども、樋渡市長が先頭に立って今回市民病院の民営化をなし遂げられました。その成果の一つとして、来年の1月1日を起点に、来年度から税収が新病院から入ってまいります。それが平成24年度、新武雄病院の固定資産税5,000万円、法人市民税200万円、個人市民税2,100万円、それと、旧病院の固定資産税が500万円、合わせて7,800万円、このほかにも学生寮の固定資産税等々もあります。その辺も入れれば約1億円近い税収が毎年毎年武雄市に入ってくるというふうになっております。これも樋渡市長の成果だというふうに思いますので、ぜひこの辺も御検討いただきましてやっていただきたい。やはり共産党の平野議員に言ったってらち明かんとですね。やはり市長が御決断をしていただかなければ先に進まないことでもありますので、この点についてもぜひ引き続き協議の課題として上げていただきたいと思います。また質問をさせていただきます。

以上、終わります。